



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

北新宿雲母保育園



こどもの「すくすく×わくわく」をおうえん

テーマ【 自然 】

設定した理由・背景

保育園の周りには、自然に恵まれた公園が沢山あり様々な樹木、植物や花、昆虫などが生息している。その地域性を活かし子どもたちが探索しやすい環境が整っているため、様々な自然に触れて探索する中で、新しい発見を見つけて興味や関心を広げ、不思議に思う気持ちから自ら調べてみようとしたり、子ども同士で探究し合ったり、「なぜ」の過程が楽しめるようこのテーマに設定した。

用意した環境設定

- ・自然が豊かな公園での園外保育で、蝶を探し調べたり公園に生息している昆虫、植物、花等を図鑑で調べられるよう種類別の図鑑を用意。表現活動を予測した文房具や製作に用いる備品
- ・購入物品：あおむしやカブトムシを飼育する虫籠、餌（柑橘の葉・ゼリー） 図鑑、色画用紙、色鉛筆、クレヨン、模造紙、カメラ

活動のあゆみ

【開始】 5月12日 近隣の保育園との交流を行いアゲハチョウの幼虫をいただく。

<5月テーマ>この幼虫は何だ？

5月12、20日 主活動の時間に、公園で蝶を探して見る。

<5月テーマ>昆虫の名前はなんだろう。あおむしからどのように蝶になっていくの？

5月15、19日 主活動時と夕方の時間に蝶の観察を行う。あおむしの動き方を観察。年長児クラスにて、顕微鏡で見たもののスケッチを行う。

5月18日 幼虫や蝶の図鑑を見る。

5月19日 蝶や昆虫の図鑑を見ながら、虫かごの中にあおむしを見る。

<6月～9月テーマ> 昆虫の飼育と観察

6月～9月 カブトムシの幼虫の飼育。

8月 奥多摩での自然観察(お泊り保育)

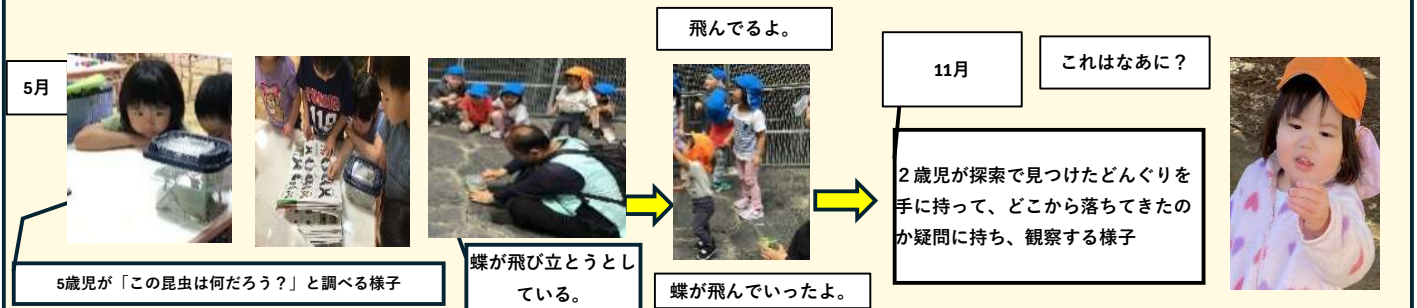
<11月テーマ>いつごろからどんぐりがおちているの？

11月6日 秋から冬への季節の移り変わりの中でどんぐりがどのくらい落ちていくか

11月20日 どんぐりの色や形を触れて見て観察する。。

✿探究活動の実績✿

- ① 近隣の保育園との交流として2匹の幼虫を頂いた。「保育園にきたこの幼虫は何だ」という疑問を子ども達が抱き、「成長したらどのような昆虫になるのだろうか？」という好奇心をもつ姿が見られた。「育てたらどのような虫になるのかわきたい」という子どもたちの探求心が広がったため保育者は、幼虫の飼育活動を開始し環境設定を行う。幼虫が育つ過程で体の模様や色の変化を観察した事で、子どもの好奇心が高まった。子ども同士で図鑑を用い調べてみたり、他の友だちに教えている場面が見られ、探究活動が深まった。
- ② 子ども達が図鑑で調べていく中で、「この模様があるからこの虫だ」「(図鑑の写真と)大きさが同じだからこの虫かも」と集中して調べる場面が見られたので、「図鑑の写真と似ているけれど、色はどうかな」「背中模様のもう一度確かめてみよう」などと言葉がけを行い、子ども同士で協力して共通点や相違点を見つけられるように問いを引き出す。
- ③ 問いの関わりを通して子どもがより注意深く幼虫を観察するようになり、集中して調べる幼児クラスの姿を見た乳児が、一緒に虫かごを覗いたり、保育者と一緒に手を伸ばして触る場面が見られた。少しずつ成長していく幼虫に餌をあげようとする姿も見られ、柑橘の葉を用いて餌を与えていたが、子ども達から「公園の葉っぱは食べれるのかな？」と新しい疑問、問いを持つ。実際にで拾った葉を拾ったり試して環境をデザインした。結果的に公園の葉を食べない事を知り、昆虫にも食べ物で好き嫌いがある事に気付く。幼虫が成長してさなぎになっていく過程を観察してどの昆虫なのか特定するようになった。さなぎからアゲハチョウが羽化すると、図鑑を用いて観察し、幼虫の頃と同じように写真と実物との共通点や相違点を探る姿が見られる。皆で育てたアゲハチョウを自然に還すと話し合っ決めて後、籠から出し空に放つ時には「元気だね」とアゲハチョウに向かって言葉をかけていた。
- ④ 昆虫に関する関心が高まり、公園でも夢中になり集中して探す姿が見られた。すくわく活動に保護者の協力も得られ、夏期にはカブトムシの幼虫を飼育する。その際にはカブトムシの生態を調べたり、どのような餌なら食べるのか子ども自ら考え更に探究を深めていった。また、奥多摩での自然観察では園の周辺では見られない、昆虫の観察もすることができた。
- ⑤ 秋から冬へと季節が移り変わる中で、子ども達は昆虫から木の実などの自然への関心を広げていった。枯葉の動きをより分かりやすく観察するために、同じく風に乗って動くシャボン玉を枯葉と一緒に撒いて観察をした。また公園でどんぐりを見つけると、嬉しそうに手に取り、集めて保育者に見せる姿が見られた。また、友だちが探求をしている姿を見て影響を受けて子ども同士が関わり始め共同して探す楽しさを味わいながら、探究活動が発展していく。



まとめ影響を受けて

活動前は、幼虫や昆虫等への関心が薄く、漠然と観察して興味がない場面が見られていたが、あおむしが、日増しに成長して動く様子や葉を食べる姿を見る中で、子ども達の興味は次第に高まっていった。目の前で起こる変化に気付き、「なぜだろう」「どうなるのだろうか」といった好奇心を持つようになり、自分で図鑑を手に取り調べようとする姿も見られるようになった。観察を重ねる中で、子ども達の発見や疑問はさらに深まり、探究心が育っている姿を実感する。

保育者も子どもと同じ目線に立ちながら気付きや疑問に寄り添い共に考えて保育者は環境をデザインを行っていった。今後も一緒に探究していく関わりを大切にしていきたい。来年度以降は、季節の変化にも「問い」を向けながら、アゲハ蝶だけでなく、様々な生き物にも関心を広げたいと考えている。色々な生き物との関わりを通し自然の植物や花に触れたり、子ども達の興味の幅を更に広げ、探究心がより深まるようにしていくことが課題。



とうきょう すくわくプログラム

2025年度活動報告書

北新宿雲母保育園



テーマ【 世界 】

設定した理由・背景

保育園の地域性として外国籍の園児が多く在籍している環境のもと英語のレッスンを通して自分たちの住む国とは違う国があるという理解から子ども達の探究心が広がり学びに向かうと予想された。今年度から始まったオンライン英会話を通して世界について学びを深めて、幼児期に世界へ興味を広げて探究意欲を向上したいとテーマにした。

用意した環境設定

- ・保育室に地球儀や国旗絵本を置き、子ども達からの興味関心を引き出していく。また、オンライン英会話をし、講師とのやり取りの中で世界について学び、興味を深めていく。
- ・購入物品：プロジェクター、地球儀、国旗絵本、国旗カード、世

活動のあゆみ

- ・6月4日～ オンライン英会話開始
※月、水、金 3歳児 9:30～ 15分間のレッスンを行う
4, 5歳児 9:50～ 15分間のレッスンを行う
- ・9月 世界の動物について学ぶ。
給食の献立内容、【世界の料理】をテーマに食育から様々な国と文化を知る。
- ・11月 世界のお祭りについて学ぶ。
- ・2月 世界の乗り物について学ぶ。
- ・日々のレッスンの成果を12月の生活発表会で披露する。
12月13日 レッスンの中に出てきたベイビーシャークを生活発表会にて披露する。

✿探究活動の実績✿

自園の中にも外国籍の園児が多数在籍しているため、日常から日本とは違う国があることをスムーズに受け入れて親しむ園児が多い。オンライン英会話のレッスンを重ねていくことで、子どもたち自ら「hello」「happy」とお互いに挨拶を交わしたり、「apple」「flour」など覚えた簡単な単語を使って外国人講師に話しかけたりする場面が増える。月ごとに教わる英単語が違うので、月ごとに「オンライン英会話で言った言葉は何だったか覚えている？」と問いかけたところ月日を重ねるごとに思い出す単語数やスピードが速くなった。徐々に日常生活の会話でもオンライン英会話で覚えた英単語を発する姿が見られ、散歩で楓を見つくと「メープルリーフだ」と保育者や友だちに伝えたり、給食で出てきたじゃが芋を「じゃが芋は英語でポテトと言うんだよね」と周りの友だちに発信していた。またトマトを「トメイトウ」と発音するなど日本語と英語の発音の違いを感じ取る様子も見られた。

12月に行った生活発表会では子ども達に「オンライン英会話で教えてもらったことを両親に見せたいと思うけど、何がいいかな？」と問いかけを行ったところ、子どもたち自身がベイビーシャークを選び口ずさみながら練習を行う姿が見られた。ベイビーシャークから「baby」「mommy」「daddy」といった家族に関わる英単語を習得していた。友だち同士で「mommyきたよ」「daddyきたよ」と会話が広がり英単語に親しむ様子が見られる。

日々のオンライン英会話のレッスンから自分たちの住む国とは違う国があり、言葉の違いや生き物、文化の違いを学び、世界のことに興味関心が広がった。一年間同じ講師だったため、会話は全て英語だったが身振り手振りやイラストを使ってコミュニケーションをとることで信頼関係が深まり、より世界について知りたいという意欲を引き出したと思う。



外国人講師と英語でコミュニケーションをとる様子。



生活発表会に向けてベイビーシャークを口ずさみながら練習する様子。



オンライン英会話を心待ちにしている様子。

まとめ

外国人講師から英語の歌や世界の文化などについてレクチャーしてもらおう中で、少しずつオンライン英会話の時間を楽しみにしている姿があり、言葉の違いや文化を深く学ぶ事で世界の様々なことに興味関心が広がっていた。外国人の友だちの国について、どこにあるのか地球儀で探すなど世界との関係性が近くなっていると感じる場面も見られた。子どもたちは素直な気持ちで柔軟に世界を受け入れており、初めて得る情報も素直に受け止めていた。世界という大きなテーマだったが、子どもたちの興味関心を広げながら、長期的な視野の中で子どもたちが主体となって探究できるものを探していきたい。